

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3472		
科目名	プライバシーと法		
担当教員	杉山 幸一		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 1		
講義室	1307	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・法学		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-H〔論理的思考力・批判的思考力〕 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP3-G〔状況把握力・判断力〕 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況的確に把握し、適切に対応することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能(50%) H1 論理的思考(20%) I1 理解・分析と読解 (20%) C1 倫理的思考・社会的認識(5%) G1 状況把握(5%)		
教員の実務経験	なし		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～ 4 完成期		
科目概要・キーワード	現代は情報化が進み、より私的な情報が氾濫するようになってきました。そこで重要となるのがプライバシー権（私事権）です。プライバシー権は複雑化した現代社会の象徴ともいえます。また、人間は社会的生き物であり、その存在を知り知られることなく社会の一員となれないばかりか、他者に知られたい本能的欲求さえも持っています。しかし、これにより、「私事」を知られることで、その人の安全を脅かされる事態にもなります。情報化した現代社会において、その安全が犯される傾向はますます強くなっています。 本講義では、古典的プライバシー権の成立過程における議論を参照した後、今日他者が管理している自己の情報の訂正または削除を請求できる権利として確立された積極的プライバシー権の意義を確認します。また、個人識別や個人認証、あるいはビッグデータなどに関連して、プライバシー保護技術についても、法的検討を加えます。 プライバシーに関する知識の習得を目標とします。 （キーワード）プライバシー権、情報法制、アクセス権 授業形態は(講義・実技・実習・演習)形式により行います。なお、対応するコンピテン스에基		

	づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。						
授業の趣旨	■副題 現代社会の重要なプライバシーの法的保護とそれに伴う人権や権利の制限についての理解 ■授業の目的 プライバシーと法の関係についての基礎的素養を身につける。個人の領域を守るためのプライバシー権について理解し、現在わが国の法制度においてどのように保護されているのか、また個人がどのようにして自分たちの情報をコントロールすることができるのか理解することを目的とします。 ■授業のポイント 憲法によって保障されるプライバシー権はどのように規制されるか、日常生活において何がプライバシーとして保護されるか。プライバシー保護に関する法制度について理解してもらいます。						
総合到達目標	■プライバシー権の基礎知識、歴史的展開について修得する ・プライバシー権の意義について説明できる。（第2回、第3回） ・アメリカや日本におけるプライバシー権の判例について説明できる。（第2回～第9回） ■憲法上のプライバシー権の意味について理解できる。 ・日本国憲法における判例の展開について説明できる。（第8回、第9回） ・アメリカにおけるプライバシー概念を説明できる。（第2回） ■憲法によるプライバシー権の保障について理解できる。 ・日本のプライバシーに関する法制度について説明できる。（第10回） ・日本におけるプライバシー権保障の実態や救済方法について説明できる。（第11回～第14回）						
成績評価方法	成績評価手段 小テスト14回（50%）：適用ルーブリック E1・I1・C1・G1 （評価の観点）当該単元の内容が知識として定着しているか。 （フィードバック方法）授業時間中に解説を行います。 授業内テスト2回（50%）：適用ルーブリック E1・I1・H1 （評価の観点）授業の内容を踏まえて、判例六法を使いながら論理立てて明確に自分の考えを示せるか。 （フィードバック方法）授業時間中に解説を行う。						
履修条件	憲法と人権、行政法の知識があると望ましい。						
履修上の注意点	法学的基礎知識を必要とするため、市民と法、国家と法の内容を確認しておくことが望ましい。						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要：授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （ガイダンス）科目の位置づけ、成績評価方法 （イントロダクション）プライバシーについて、プライバシー権の保障と保護（E1） ③予習（120分） LiveCampusで事前に配布したパワーポイントを読んで理解しておかなければならない。 ④復習（120分） 授業を振り返り、プライバシーについての概略などパワーポイントでメモしたことをまとめる。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ プライバシー権の成立過程と確立 ②授業概要 プライバシー権は、現代社会から生まれた新しい人権であるといわれています。そこで、プライバシー権とはどのようなことが起因となってできたものなのか（C1、G1）、情報化社会によって現在プライバシー権はどのように確立してきたのかを理解してもらいます（E1）。 ③予習（120分） プライバシー権の必要性について考え、問題となっている事例や法律を調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、配布したレジュメ及び資料を見て、プライバシーの必要性について理解しなければならない。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要：授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （ガイダンス）科目の位置づけ、成績評価方法 （イントロダクション）プライバシーについて、プライバシー権の保障と保護（E1） ③予習（120分） LiveCampusで事前に配布したパワーポイントを読んで理解しておかなければならない。 ④復習（120分） 授業を振り返り、プライバシーについての概略などパワーポイントでメモしたことをまとめる。	2	①授業テーマ プライバシー権の成立過程と確立 ②授業概要 プライバシー権は、現代社会から生まれた新しい人権であるといわれています。そこで、プライバシー権とはどのようなことが起因となってできたものなのか（C1、G1）、情報化社会によって現在プライバシー権はどのように確立してきたのかを理解してもらいます（E1）。 ③予習（120分） プライバシー権の必要性について考え、問題となっている事例や法律を調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、配布したレジュメ及び資料を見て、プライバシーの必要性について理解しなければならない。
回	内容						
1	①授業テーマ ガイダンス（全体のテーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明）、イントロダクション ②授業概要：授業概要、授業の目的と進め方、到達目標、成績評価方法について説明を行います。 （ガイダンス）科目の位置づけ、成績評価方法 （イントロダクション）プライバシーについて、プライバシー権の保障と保護（E1） ③予習（120分） LiveCampusで事前に配布したパワーポイントを読んで理解しておかなければならない。 ④復習（120分） 授業を振り返り、プライバシーについての概略などパワーポイントでメモしたことをまとめる。						
2	①授業テーマ プライバシー権の成立過程と確立 ②授業概要 プライバシー権は、現代社会から生まれた新しい人権であるといわれています。そこで、プライバシー権とはどのようなことが起因となってできたものなのか（C1、G1）、情報化社会によって現在プライバシー権はどのように確立してきたのかを理解してもらいます（E1）。 ③予習（120分） プライバシー権の必要性について考え、問題となっている事例や法律を調べる。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、配布したレジュメ及び資料を見て、プライバシーの必要性について理解しなければならない。						

3	①授業テーマ プライバシー権と日本国憲法 ②授業概要 プライバシーは現代社会において保護すべき重要なものです。日本国憲法によってプライバシー権は保障されているが、条文上では「プライバシー権」という文字は存在しません。そこで、プライバシーがどのように憲法によって保護されているのか（E1）、判例によってどのように確立してきたのか確認し、日本におけるプライバシー権保障を考えます（H1）。 ③予習（120分） 事前に配布したパワーポイントを読む。1年生の時に受講した「国家と法」や「憲法と人権」のパワーポイントも読む。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、プライバシー権保障について理解し、重要判例を確認する。
4	①授業テーマ プライバシー権と表現の自由 ②授業概要 憲法上の権利としてのプライバシー権と表現の自由は衝突する可能性があります。そして、プライバシー権侵害を理由に表現の自由が制限されることもあります。そこで、表現の自由の重要性について理解し（E1）、プライバシー権と衝突する場合、どのようにこれを制約すべきか判例を見て、考えます（H1）。 ③予習（120分） 事前に配布したパワーポイントを読んでくこと。憲法に関する教科書で表現の自由について読む。 ④復習（120分） 配布したレジュメと講義ノートを確認し、表現の自由の重要性、プライバシー権と衝突した場合の制限について理解しなければならない。
5	①授業テーマ プライバシー権と報道の自由 ②授業概要 表現の自由には、報道の自由が含まれます。マスコミなどの報道機関が取材に於いて個人の私的領域に入り込むことはよくあります。その場合、個人のプライバシーを侵すこととなり、問題です。そこで、報道の自由とはどのようなものか（E1）、報道の自由に含まれるといわれる取材の自由はプライバシーと衝突する場合、どのような問題となるのか判例などを概観し、考察します（H1）。 ③予習（120分） 事前に配布したパワーポイントを読んでくこと。報道の自由はどのような物であるか調べてくる。 ④復習（120分） 配布したレジュメと講義ノートを確認し、報道の自由とプライバシーがどのように関わり、衝突するのか考える。
6	①授業テーマ プライバシー権に関する諸問題 ②授業概要 プライバシー権は表現の自由だけではなく、様々な権利や法益などと衝突します。そこで、プライバシー権と衝突する防犯カメラや監視カメラとの問題、自己情報をコントロールする権利としてのプライバシー権の問題、忘れられる権利などを取り上げ（E1）、プライバシー権に関する諸問題について考えます（H1）。 第1回から第6回の内容を確認するため第1回ミニ・テストを実施します（E1、H1）。解説は、テスト終了後に行います（I1、G1）。 ③予習（120分） 事前に配布したパワーポイントを読んでくこと。情報に関する諸法律について調べてくる。 ④復習（120分） 配布したレジュメと講義ノートを確認し、プライバシー権と行政機関の衝突や情報管理について考える。
7	①授業テーマ プライバシー権と行政機関 ②授業概要 行政機関は、国民の個人情報をもく管理し、利用しています。そのため行政機関が情報を扱い利用するために多くの法律が制定されています。そこで、まず行政機関に対する情報関係の諸法律について理解し、また行政の情報化について考えます（E1）。 プライバシー権と様々な権利や人権との衝突についての事例を出し、自らの見解を述べるためのレポートを実施します（E1・H1・C1）。翌週、レポートの解説を行います

	(I1)。 ③予習 (120分) 事前に配布したパワーポイントをよく読み、情報に関する諸法律について調べてくる。 ④復習 (120分) 配布したレジュメと講義ノートを確認し、プライバシー権と行政機関の衝突や情報管理について考える。
8	①授業テーマ プライバシー侵害の具体例① ②授業の概要 現代社会においてプライバシー保護は重要さを増す一方で、何をもってプライバシーを害するのか従来では考えられないこともあります。そこで、具体的にどのような者がプライバシーを侵害することになるのかここ20年で争われたプライバシーに関する判例を紹介し (E1)、何がプライバシー侵害になるのか考察します (H1)。 レポートの解説を行います (I1) ③予習 (120分) 事前に配布したパワーポイントをよく読み、プライバシーの具体例を見るにあたり判例を確認するため、判例の構造を確認し、事前に提示した判例の内容を把握する。 ④復習 (120分) 講義ノートを確認し、プライバシーを侵害する場合としない場合の区別を理解しなければならない。
9	①授業テーマ プライバシー侵害の具体例②と救済方法 ②授業の概要 現代社会においてプライバシー保護は重要さを増す一方で、何をもってプライバシーを害するのか従来では考えられないこともあります。そこで、具体的にどのようなものがプライバシーを侵害することになるのかここ20年で争われたプライバシーに関する判例を紹介し、何がプライバシー侵害になるのか考察します (E1)。さらにプライバシーを害された場合にどのような救済方法があるのか、民法の不法行為などを復習し、プライバシー侵害に対する救済について考察します (H1)。 ③予習 (120分) 事前に配布したパワーポイントをよく読み、プライバシーの具体例を見るにあたり判例を確認するため、判例の構造を確認し、事前に提示した判例の内容を把握しておかなければならない。民法上の救済方法について復習しておかなければならない。 ④復習 (120分) 講義ノートを確認し、プライバシーを侵害する場合としない場合の区別を理解しなければならない。プライバシーを侵害された場合の救済方法について理解しておかなければならない。
10	①授業テーマ プライバシーと法制度について ②授業の概要 IT 化の進展は私たちの生活に多くのメリットをもたらしている反面、同時に新たなリスクを生み出しています。代表的なものが、プライバシー・個人情報に関する問題となります。さらに電子商取引は、利便性のきわめて高いサービスであるが、反面情報流通経路において、購入者の住所、氏名やクレジットカード番号などの個人情報が漏洩するリスクも存在します。そこで、プライバシー保護について情報公開法制、個人情報保護法制など代表的な法律について概観し (E1)、プライバシーに関する法制について考えます (H1)。 ③予習 (120分) 事前に配布したパワーポイントをよく読み、個人情報保護法や情報公開法等の目的や条文を確認する。 ④復習 (120分) 講義ノートを確認し、プライバシーに関する法制度について理解しておかなければならない。
11	①授業テーマ 個人情報保護法、住民基本台帳とマイナンバー制度について ②授業概要 行政機関が保有する情報は基本的に国民に知らせ、その利用に供するものです。しかし、この情報の中には、個人のプライバシーに関わるものもあり、保護しなくてはなりません。そこで、個人情報保護法が制定された。同法の目的や個人情報保護のシステムについて理解することを目的とします (E1)。また平成27年にいわゆるマイナンバー法が成立し、個人に番号が割り当てられるマイナンバー制度が始まったことによりこの番号に様々な個人情報をつけることになり、プライバシー権との間で問題となります。

	また、すでに個人に番号を割り当てた住民基本台帳ネットワークがあり、これとの区別や違いがあります。それぞれの制度を概観し、区別や違いについて理解することを目的とします（E1、H1、C1）。 ③予習（120分） 事前に配布したパワーポイントを読んでくること。個人情報保護法、住民基本台帳法、マイナンバー法の第1条を読み、各法律の目的について把握する。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、個人情報保護法、住民基本台帳法、マイナンバー法の目的や個人情報保護のシステムについて理解しておかなければならない。
12	①授業テーマ 犯罪とプライバシー ②授業概要 刑法による情報保護は、主に窃盗罪、横領罪といった財産犯を定めていることです。そこで、情報保護はプライバシーの保護につながるものであるため、刑法による保護について概観し（E1）、どのような行為が刑法上の犯罪に該当するのか理解できるようにします（H1、C1）。 ③予習（120分） 事前に配布したパワーポイントを読んでおき、「生活安全と法」などの講義ノートで財産犯について復習しておかなければならない。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、プライバシー権の刑法的保護を理解しなければならない。
13	①授業テーマ 情報の取り扱いとそれに起因する法的責任 ②授業概要 個人情報などプライバシーに関わる情報の取扱については、各行政機関や企業などが慎重な対応をしています。そこで、情報の取得・保有・発信といったことで、どのような法的責任が課せられるのか考察します（E1、H1）。とくに他人権プライバシー権を侵害するような発信の法的責任を中心に考察します（H1）。 ③予習（120分） 事前に配布したパワーポイントを読んでくること。できれば参考書『情報法入門』の第4章を読む。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、情報の取扱やプライバシー権を侵害した場合の法的責任について理解しておかなければならない。
14	①授業テーマ ネットワークにおける内における媒介者の責任 ②授業概要 インターネット上で情報を媒介する者は情報の削除や遮断ができるため、問題解決に重要な役割を担う場面が多い。そこで、インターネット上でプライバシー権が侵害された場合、媒介者はどのような責任が生じ、問題解決のためにどのような役割を担うのか考えます（E1、C1）。 第7回から第14回の内容を確認するため第2回ミニ・テストを実施します（E1、H1）。解説は、テスト終了後に行います（I1、G1）。 ③予習（120分） 事前に配布したパワーポイントを読んでくること。できれば参考書『情報法入門』の第5章を読む。 ④復習（120分） 講義ノートを確認し、ネットワークにおける媒介者の責任について理解しておかなければならない。。
15	①授業テーマ プライバシーと法のまとめ ②授業概要 14回の授業で学んできたことを総括し、プライバシー権の基本的理論やプライバシーに関する事例や理論を確認するため授業内試験を実施します（1時間、E1、H1）。試験終了後、解説を行います（30分、I1） ③予習（120分） 講義ノート全体を読み直す。 ④復習（120分） 講義ノートを読み返し、さらに試験後の解説に関するメモを確認し、今後履修する情報系科目について考える。
関連科目	知的財産法制（RMGT3473）

教科書	『判例六法（最新版）』（有斐閣） 毎回パワーポイントを事前に配布する。
参考書・参考URL	小向太郎『情報法入門』（NTT出版） 宇賀克也・長谷部恭男編『情報法』（有斐閣）
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日1限 それ以外の時間については、講義後にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント10%、パブリックセキュリティ10%、グローバルセキュリティ10%、情報セキュリティ70% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学30%、法学70%

